3　桂川・相模川 流域シンポジウム

桂川・相模川からのメッセージ
～　水質と農薬のかかわり　～

（報告者：倉橋　満知子）

⑴　はじめに

今回で10回目を迎える流域シンポジウム、これまでもいろいろなテーマで開催してきました。テーマを設定するまでには実行委員会での意見、議論を交わしながら決定します。三者が簡単に合意できる場合もありました。反対になかなか合意できない場合があります。その場合でも意見の交換は時間をかけてお互いが納得のいくまで話し合います。今回は後者の方でした。

開催場所は神奈川県愛川町です。相模川の右岸側に位置し、中津川の山間の広いとは言えない水田が存在する、本厚木や海老名からバス交通のみの不便を伴う立地条件をどのような手法で開催するかという課題がありました。皆の共通の意見は目を見張るような、インパクトが必要ということでした。市民側が農薬のテーマ提案をしました。実行委員会を結成する前から、水質における農薬について検討してきた経緯がありました。金沢市での減農薬の緑地管理の事例で、日本一の農薬使用量を95%も削減したことを受けて、視察に行ってきました。（報告は別ページ）また、神奈川県の農薬使用の現状など、学習会を開催するなど、シンポジウムに向けて準備をしてきました。

しかし、実行委員会での行政側の農薬に対する拒否反応は強いものがありました。何故、農薬なのか、もっと大きな問題があるのではないか（ごみの不法投棄など）、農業と農薬を切り離すことができない状況を踏まえれば、前面に出すことのできない行政の立場などで、硬直状態がありました。

そんななかで、委員の水道事業者がなぜ、農薬を取り上げてはいけないのか、水道事業者は農薬にはたいへん神経を使っていて、現状を報告したいという意見が出されました。農業はいろんな課題を抱えているなかで、有機農法などのやり方も様々に取り組みが報告されており、また、桂川・相模川流域には数多くのゴルフ場が存在しています。農薬の是非を問うことではなく、おいしく、安全な水道水のために、いかに削減できるかの可能性を探るシンポジウムにすることで、全員が一致しました。テーマ「水質と農薬のかかわり」が決まりました。20年度からは水道水の検査項目に農薬が入りました。

ア　開催概要

■開催日：11月23日(金・祝)13:00～16:00
■会　場：愛川町文化会館（神奈川県愛川町）
■テーマ：「桂川・相模川からのメッセージ
　～水質と農薬のかかわり～」
■参加者：約170名
■パネル展示（12団体）
■プログラム
　1　主催者開会挨拶
　　倉橋　満知子（代表幹事）
　2　来賓挨拶
　　伊従　秀行（愛川町環境経済部長）
　3　事例発表
　①水道水への影響について
　　三橋　康之（神奈川県内広域水道企業
　　水質管理課　課長補佐兼水質管理係長）
　②水生生物への影響について
　　五箇　公一（(独)国立環境研究所
　　主席研究員）
　③環境にやさしい緑地管理
　　～金沢市の取組み～
　　今井　敏彦（大浦校下（こうか）

アメリカシロヒトリ防除協力会　代表）
④ゴルフ場の農薬使用の実態と都留市ゴルフ場連絡協議会の取組み
杉山　肇（桂川・相模川流域協議会　市民部会）
⑤豊かな生きものを育む農法
～愛川町の田んぼの生きもの調査から～
大木　悦子
（あいかわ自然ネットワーク　事務局）
松村　和音
（東海大学教養学部北野研究室）
4　意見交換会
コーディネータ
：石川　武久、中門　吉松（市民部会）

イ　結果概要

（ア）事例発表

水道水への影響について

神奈川県内広域水道企業団　三橋氏

水道における農薬流入の対応としては、粉末活性炭の注入等を行うとともに、農薬の一斉散布情報を入手し、散布直後及び散布後の降雨時には原水の農薬監視体制を強化しているが、将来的にはさらに今よりも厳しい基準を設け、安心して飲んでいただける水道水をつくるよう努力していく。農協の協力もあり、農薬が高濃度に検出される時期はかなり解明されてきたが、検出情報で検出される農薬はまだ一部であり、多くの検出事例は散布情報から漏れている。水道としては、いつ、どこで、どのような農薬が、どの程度、どのような方法でまかれたという情報があれば、すばやい対応ができるので、是非皆様のご協力をお願いしたい。

水生生物への影響について

国立環境研究所　五箇氏

実験水田で殺虫剤（箱苗で撒く）処理区、殺菌剤（シャンプー）処理区、無処理区の比較実験を行った。対象の殺虫剤はOECDがオオミジンコ等水生生物への毒性が極めて低いとしており、水稲の箱苗処理を可能とした。しかし、実験の結果、水生生物の生態系に影響を及ぼし、水質まで変わってしまっているということが分かった。実験だけのリスク評価だけでは実際の野外での効果や影響を想定することはできず、外に出してみなければ真の生態リスクというものは計り知れない。

環境にやさしい緑地管理

～金沢市の取組み～

大浦校下アメリカシロヒトリ防除協力会　今井氏

平成13年から、金沢市が行った早期発見と捕殺防除（薬剤を使わず、虫を捕え

て殺す事）実施について、町内会での説明を聞いて納得した方は少数であったが、虫の習性や発生樹木の種類などの詳細な説明を行っていた。市の要請にこたえ、地域に呼びかけ、造園業 OB を中心に捕殺防除協力会をつくり取り組んだところ、害虫は年々減少している。住民自身が取組むことで、薬剤を使わない地域が生まれ育つのではないか。

ゴルフ場の農薬使用の実態と都留市ゴルフ場連絡協議会の取組み

市民部会　杉山氏

平成元年に都留市内にゴルフ場を建設する計画が 6 件持ち上がったことを受け、平成 2 年に市・行政・市民を構成員とし、ゴルフ場の造成、営業等に関して相互の信頼関係を確立し、公害の防止及び自然環境の保全を図る目的で、都留市ゴルフ場連絡協議会を設立した。都留市では、

他自治体よりも厳しい検査を実施し、農薬の使用の監視を強め、下流住民の不安の解消に努めている。現在、ポジティブリスト制度がスタートし、農薬の使用が今まで以上に規制されつようになった。制度的に監視をし、使用を必要最小限に止めるべきではないかと思う。

豊かな生きものを育む農法

～愛川町の田んぼの生きもの調査から～

あいかわ自然ネットワーク　大木氏

東海大学教養学部　松村氏

私たちが調査のフィールドとしている尾山耕地は、多様な里山環境があり、生物の多様性が保たれている地域である。その中には、絶滅危惧種も含まれている。

2006年から、モートンイトトンボとトウキョウダルマガエルの調査を行った。モートンイトトンボの水田ごとの個体のカウント調査を行ったところ、水田によっての個体数の差が明確に現れたが、農薬のみが要因であるとは断言できない。現在水質と生息状況の関係を明らかにするため、水質分析を行っている。今後も引き続き調査していきたい。トウキョウダルマガエルの捕獲調査を行ったところ、奇形率が約５％であった。この奇形には、農薬が寄与している可能性はあるが、他の要因も考えられるため、断言できない。今後は、行政、市民、専門研究者、農業者が一体となった協働の取組みで生物の保全を図っていきたい。

ウ　意見交換会

休憩を挟み、意見交換会を実施しました。コーディネータは市民会員の石川氏・中門氏が務めました。多くの質問があり、大変充実したものとなりました。

＜各パネリストのまとめ＞

・市民の方々が水道水の安全に関して非常に関心を持っていらっしゃることは切実に感じている。今後もさらなる安全・安心に向けた努力を行っていきたい。（三橋）

・自然と共生する農業を中心とした生活様式を目指すことはできないかと環境省も考えている。消費者にブームが起こるような普及啓発が大事なのではないかと思っている。
基準値に関しては、一元的な基準値で考えるのではなく、地方ごと・生物ごとに基準値を設けることが理想的である。
化学物質のおかげで救われている命があるのも事実で、安全に使えば、有効な材料になる。今後は、総合的なリスク管理あるいは食糧管理というものを目指していくことが必要ではないか。（五箇）

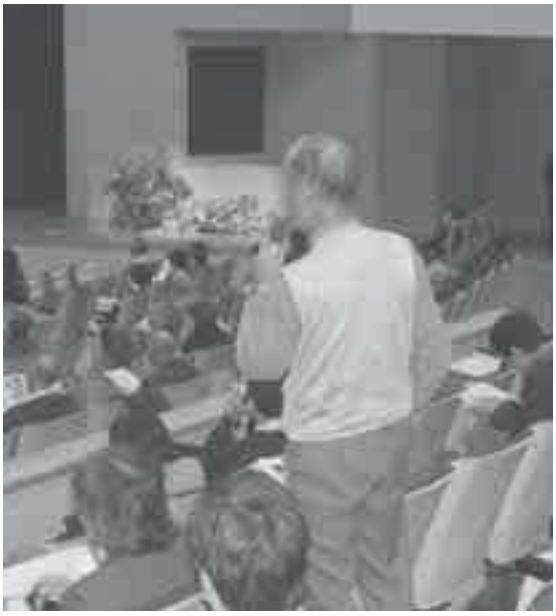
・金沢市では、ホタルの再生のため、検討会を立ち上げ、それぞれの地域で取り組んでいる。農薬を使わない区域で、今年は卵から育て放流した。今日はお互いに住んでいる地域で皆さんがいろいろと取組んでいることを実感した。今後も自分の地域での取組みを継続し

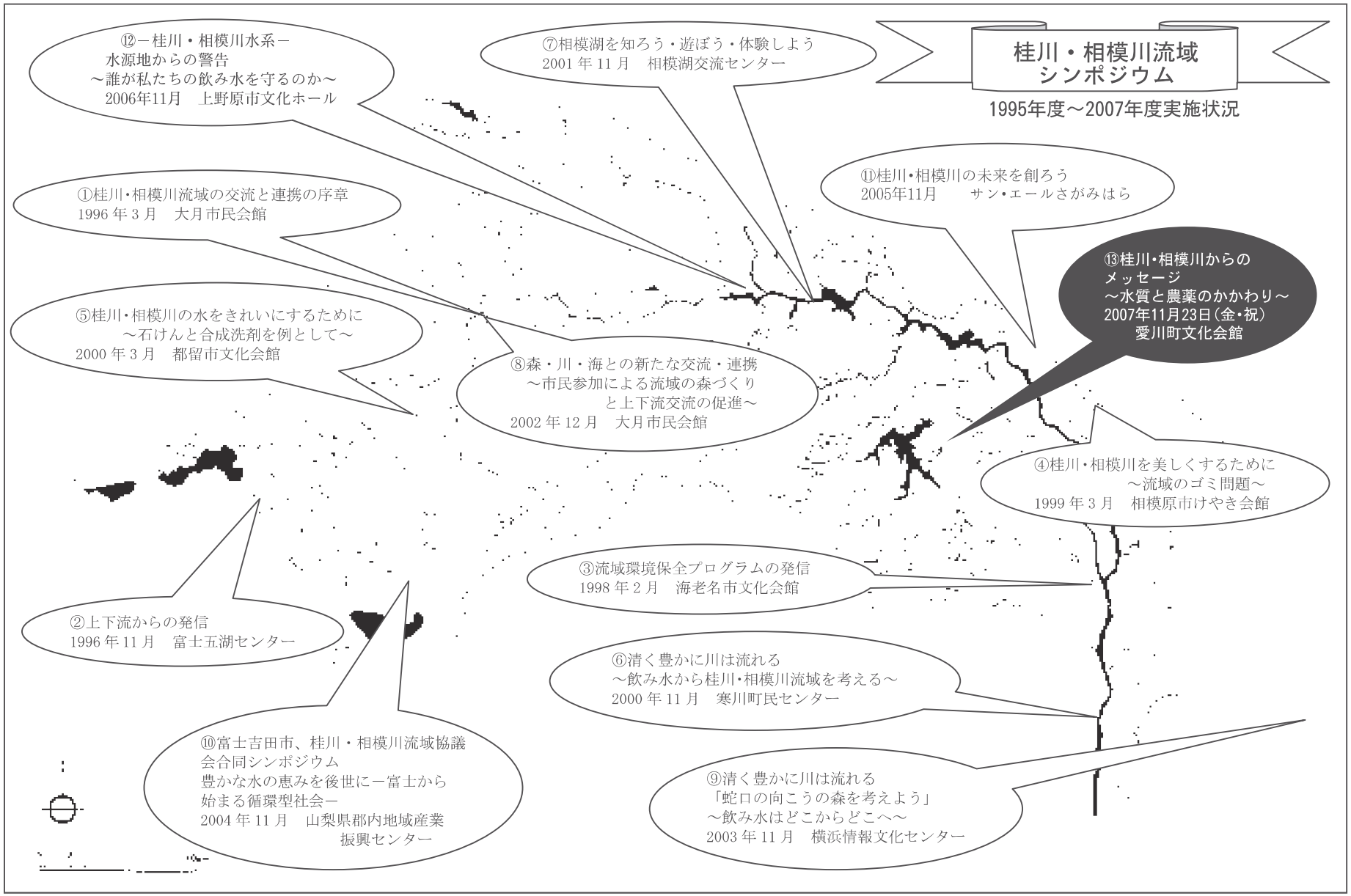
ていきたい。（今井）

・農薬を全く否定するものではないと思っている。過剰に使うことが問題であって、市民にできることは「虫がいることが環境にいい」といった意識改革ではないか。今後もそういった声を上げていきたい。（杉山）

・天敵が害虫を食べ、農薬よりも効果が高いということに大変驚いた。一斉に同じように農薬を使うということでなくても、きちんと自分の田んぼを見よう、生きものを見ようとすれば、自ずとどうすればいいのか分かるということを痛感した。（大木）

・農薬の安全性・危険性の正しい評価、農薬を使わざるを得ない現状、背景を理解することが、農薬の適切な利用をする上でまずは必要であると感じた。今回のシンポジウムは貴重な経験となった。（松村）




桂川・相模川流域
シンポジウム
1995年度～2007年度実施状況
⑫－桂川・相模川水系－
水源地からの警告
～誰が私たちの飲み水を守るのか～
2006年11月　上野原市文化ホール
⑦相模湖を知ろう・遊ぼう・体験しよう
2001 年 11 月　相模湖交流センター
⑪桂川・相模川の未来を創ろう
2005年11月　サン・エールさがみはら
①桂川・相模川流域の交流と連携の序章
1996 年 3 月　大月市民会館
⑬桂川・相模川からの
メッセージ
～水質と農薬のかかわり～
2007年11月23日（金・祝）
愛川町文化会館
⑤桂川・相模川の水をきれいにするために
～石けんと合成洗剤を例として～
2000 年 3 月　都留市文化会館
⑧森・川・海との新たな交流・連携
～市民参加による流域の森づくり
と上下流交流の促進～
2002 年 12 月　大月市民会館
④桂川・相模川を美しくするために
～流域のゴミ問題～
1999 年 3 月　相模原市けやき会館
③流域環境保全プログラムの発信
1998 年 2 月　海老名市文化会館
②上下流からの発信
1996 年 11 月　富士五湖センター
⑥清く豊かに川は流れる
～飲み水から桂川・相模川流域を考える～
2000 年 11 月　寒川町民センター
⑩富士吉田市、桂川・相模川流域協議
会合同シンポジウム
豊かな水の恵みを後世に－富士から
始まる循環型社会－
2004 年 11 月　山梨県郡内地域産業
振興センター
⑨清く豊かに川は流れる
「蛇口の向こうの森を考えよう」
～飲み水はどこからどこへ～
2003 年 11 月　横浜情報文化センター